

線形写像の次元定理

V, W を実数 \mathbf{R} 上のベクトル空間, $T: V \rightarrow W$ を線形写像とする. $n = \dim V$ が有限ならば,

$$\dim V = \dim \text{Ker}(T) + \dim \text{Im}(T) \quad (1)$$

が成り立つ.

証明. $\text{Im}(T), \text{Ker}(T)$ が有限次元であること: $\{\mathbf{v}_i\}_{i=1, \dots, n}$ を V の基底とすれば, $\text{Im}(T)$ は $\{T(\mathbf{v}_i)\}_{i=1, \dots, n}$ で生成されるので, $\dim \text{Im}(T)$ は有限である. 一方, $\text{Ker}(T)$ は V の部分空間なので, $\dim \text{Ker}(T) \leq \dim V$ が成り立ち, 次元は有限である.

そこで, 改めて $\{\mathbf{v}_i\}_{i=1, \dots, m}$ を $\text{Ker}(T)$ の基底とし, $\{\mathbf{w}_j\}_{j=1, \dots, r}$ を $\text{Im}(T)$ の基底とする. 像の定義より, \mathbf{w}_j に対して $T(\mathbf{v}_{m+j}) = \mathbf{w}_j$ を満たす V の元 \mathbf{v}_{m+j} が存在する. このとき, $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_m, \mathbf{v}_{m+1}, \dots, \mathbf{v}_{m+r}\}$ が V の基底となっていることを示せば, (1) が成り立つことが証明される.

(i) $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_{m+r}\}$ の線形独立性:

$$c_1 \mathbf{v}_1 + \dots + c_{m+r} \mathbf{v}_{m+r} = \mathbf{0}_V \quad (2)$$

とおく. (2) の両辺を T で写像すると

$$c_1 T(\mathbf{v}_1) + \dots + c_{m+r} T(\mathbf{v}_{m+r}) = \mathbf{0}_W$$

となり, $T(\mathbf{v}_i) = \mathbf{0}_V$ ($i = 1, \dots, m$) および $T(\mathbf{v}_{m+j}) = \mathbf{w}_j$ ($j = 1, \dots, r$) を代入することによって,

$$c_{m+1} \mathbf{w}_1 + \dots + c_{m+r} \mathbf{w}_r = \mathbf{0}_W$$

を得る. $\{\mathbf{w}_j\}$ の線形独立性から, $c_{m+1} = \dots = c_{m+r} = 0$ を得る. これらを (2) に代入することにより

$$c_1 \mathbf{v}_1 + \dots + c_m \mathbf{v}_m = \mathbf{0}_V$$

を得る. $\{\mathbf{v}_i\}_{i=1, \dots, m}$ の線形独立性から $c_1 = \dots = c_m = 0$ を得る. 以上のことから, (2) を仮定すれば $c_1 = \dots = c_{m+r} = 0$ が成り立つので, $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_{m+r}\}$ は線形独立であることがわかる.

(ii) $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_{m+r}\}$ は V を生成する: \mathbf{x} を V の勝手な元とする. $T(\mathbf{x})$ は $\text{Im}(T)$ の元なので

$$T(\mathbf{x}) = a_1 \mathbf{w}_1 + \dots + a_r \mathbf{w}_r$$

と表すことができる. いま, $\mathbf{y} = a_1\mathbf{v}_{m+1} + \cdots + a_r\mathbf{v}_{m+r}$ とおくと

$$T(\mathbf{x} - \mathbf{y}) = T(\mathbf{x}) - T(\mathbf{y}) = \mathbf{0}_W$$

となり, $\mathbf{x} - \mathbf{y} \in \text{Ker}(T)$ であることがわかる. したがって,

$$\mathbf{x} - \mathbf{y} = b_1\mathbf{v}_1 + \cdots + b_m\mathbf{v}_m$$

と表すことができる. ゆえに

$$\mathbf{x} = b_1\mathbf{v}_1 + \cdots + b_m\mathbf{v}_m + a_1\mathbf{v}_{m+1} + \cdots + a_r\mathbf{v}_{m+r}$$

となり, 任意の $\mathbf{x} \in V$ が $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_{m+r}\}$ の線形結合で書けることが示された.

以上のことから, $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_{m+r}\}$ は V の基底となり,

$$\dim V = m + r = \dim \text{Ker}(T) + \dim \text{Im}(T)$$

が成り立つ.

□